

第5課 気づいたこと・驚いたこと〈話してみよう〉

リタ：(エレベーターで)あ、山本さん、早く、早く。下りますよ。

山本：あ、はい、ちょっと待って。ああ、すみません。助かりました。

リタ：いいえ、どういたしまして。やっぱり山本さんも「すみません」って言うんですね。

山本：え、「すみません」？

リタ：ええ、私だったら、「ありがとう」と言います。でも、「助かりました」という言葉は大好きです、日本らしくて。

山本：日本らしい、ですか。

リタ：ええ、いつも人の気持ちを考えているでしょ。私、日本に来たばかりのころ、旅行に行ったんです。旅館で朝ご飯に生の卵が出たので、食べずに残したら、次の朝、私だけゆでた卵が出てきたので、びっくりしました。本当にすごいです。

山本：それは良かったですね。サービスは気配りが大切ですよ。

リタ：そう、それ、気配り。でも、気配りをしすぎるのも良くないなって思うこともあります。

山本：へえ、どんなことですか。

リタ：お年寄りがね、私が席を譲るたびに、「すみません」って…。それを聞くと、ちょっと悲しくなります。私の国では当たり前のことだから、お年寄りも「すみません」なんて言って、ぺこぺこしません。だから、「ありがとう」でいいと思います。

山本：なるほど。確かに「ありがとう」のほうが気持ちがいいですね。

第5課 気づいたこと・驚いたこと〈読んでみよう〉

リタさんは、エレベーターで下りようとしたとき、山本さんが来たので、待ってあげました。山本さんが「すみません。助かりました」と言ったので、リタさんは、日本らしい言い方だと思いました。日本では、気配りを大切にしているからです。リタさんは、旅行に行ったときの話をしました。朝ご飯で生の卵を食べずに残したら、次の朝、リタさんにだけゆでた卵が出てきたので、日本の気配りはすごいと思いました。

しかし、気配りをしすぎるのは良くないと思っています。電車でお年寄りに席を譲るたびに、お年寄りはいつも「すみません」と言います。それを聞くと、リタさんは悲しくなります。リタさんの国ではお年寄りに席を譲るのは当たり前のことだから、お年寄りも「すみません」とは言いません。リタさんは、人の気持ちを考えすぎて「すみません」と言うより、「ありがとう」と言ったほうがいいと思っています。